

人権ニュース

日本キリスト教会 人権委員会 発行
2023 年度 NO.1 発行日 2023 年 8 月 7 日
発行元 〒090-0035 北海道北見市北斗町 2 - 1 - 30
日本キリスト教会 北見教会気付
Tel/Fax 0157 - 23 - 3361

- ◇ 《巻頭言》 御言葉から差別の問題を考える
- ◇ 関東大震災後の朝鮮人・中国人虐殺事件に思う
- ◇ 集会案内

池永順一 …… 1～2
森下一彦 …… 2～3
…… 3～4

《巻頭言》

御言葉から差別の問題を考える 使徒言行録 10 章 9～33 節

主なる神は、使徒ペトロを異邦人伝道に遣わしました。しかもローマ皇帝のために仕え、歴戦の強者である百人隊長コルネリウスのところに主イエス・キリストの福音を伝えに来たのです。当時のユダヤ人の中には異邦人は清くない存在(汚れた存在)であるという思考の枠がありました。それを主なる神は打ち壊してくださったのです。

ペトロが、百人隊長コルネリウスの三人の使いを迎えると、彼らは次のようにペトロに言いました。「百人隊長のコルネリウスは、正しい人で神を畏れ、すべてのユダヤ人に評判の良い人であり、あなたを家に招いて話を聞くようにと聖なる天使からお告げを受けたのです。」

これを聞いたペトロは、カイサリア(パレスチナ北部の海岸にある町)に住んでいた百人隊長コルネリウスの家を訪ねました。ペトロは、ユダヤ教に心を寄せていたコルネリウスに、主イエス・キリストの福音(十字架の言と復活の希望等)を語ったところ、主なる神の御霊が降り、コルネリウスは洗礼を受けたのです。

ここから差別の問題を考えてみたいと思います。ペトロをはじめユダヤ人の心のなかには、意識的にしろ無意識的にしろ異邦人(外国人)に対する大きな壁がありました。これは生物学的に、あるいは本能的な恐れ(不安感)があるのだと思います。しかし聖書は、兵士で人を剣で切り殺す能力を持つ人物を恐れるのではなく、主なる神を畏れることを求めます。自分とは違う者に対して距離を置くのは予測を越えた動きを相手がすることがあるからです。

しかし、よくよく考えてみますと、果たして同じ考えを持つ他者が存在するのでしょうか。同胞(同族)であっても、見た目が似ていたとしても、その個性(脳の中身、思考方法)は全く異なっているのです。

聖書は人間を定義するとき、自由意思を持つ者として描きますし、罪に偏りやすい(悪に染まりやすい)存在であることを教えます。しかし、一人一人は異なったパーソナリティーを持っていても、主なる神は人間を愛し、赦し、導いてくださるのです。ユダヤ人であっても、異邦人であっても受け入れてくださるのです。神を畏れる者、謙遜な者として招いてくださるのです。

この主なる神に対する信頼を深めるとき、自分が築き上げてきた心の壁が少しずつ取り払われて行くのです。人の心は弱く、物の考え方は次々と変わり移って行きますが、聖書を読み、主イエス・キリストを通して神の御心に触れるとき歴史の終極から見て行く神の眼差しが与えられて、偏狭な心、視野狭窄のようになってしまっている状態から出ることができるようになるのです。それは私たちの罪のため死んでくださったお方が現われ出るからです。その命を差し出され、主イエス・キリスト御自身が受けるべき神の義を与えてくださったことに魂を動かされるからです。

キリスト教はユダヤ人を排斥した時代を歩んだことを忘れてはいけません。主イエスを殺したことを謝れと言ってユダヤ人の少年をイジメている光景を見たことがありますし、そもそも主イエスはユダヤ人だったのにユダヤ人を差別したことは非常におかしなこと(ナンセンス)であると思います。本来、イスラエルは神の民であり、5000 年の信仰の歩みを為しています。

ではキリスト者の立ち位置はどこにあるのかと言いますと。神の第一の民であるイスラエルに接ぎ木されたのが、私たちクリスチャンなのです。私たちは主イエス・キリストを土台にして立っているのですが、同時に第二の民である自覚を持たなければならぬと思います。古い皮袋から新しい皮袋に代わ

っても中身が大切に持ち運ばれて行くことが大切なのです。

主イエス・キリストの福音は歴史の終わるときまで語られて行きます。それは世界宗教だから当然な

のではなく、人間にとって唯一の慰めであり、究極の希望だからです。これこそが、あらゆる差別や偏見をなくして行く確かな道であり続けるのです。

(人権委員会委員 明石大久保教会牧師 池永順一)

関東大震災後の朝鮮人・中国人虐殺事件に思う

はじめに

今年、関東大震災から 100 周年を迎えた。人権委員会では、日本キリスト教協議会(NCC)の呼びかけのもとに結成された「関東大震災 朝鮮人・中国人虐殺 100 年 キリスト者追悼集会」実行委員会に日本キリスト教会を代表して出席している。追悼集会は 9 月 3 日(日) 午後 4 時から、在日大韓基督教会 東京教会で開催される。ウェブでも配信する予定なので、多くの方々に視聴していただき、100 年前に起きた虐殺事件を心に留め、人間の狂気に満ちた殺戮行為が、近代の日本で起きたことに思いを寄せていただきたい。また、追悼式実行委員会への参加の呼び掛けがなければ、関東大震災後の虐殺事件を深く知ろうともせず、むしろ無関心であったことを恥じなければならぬ。いま一度、過去の出来事を振り返り、震災後に殺された人たちの呻きに少しでも思いを寄せたい。

地震発生

1923 年(大正 12)9 月 1 日午前 11 時 58 分に相模湾を震源とするマグニチュード 7.9 の大地震が起こり、南関東を中心に甚大な被害をもたらした。死者・行方不明者は推定 10 万 5000 人におよび、記録に残る日本の地震被害としては最大規模のものとなった。神奈川県及び東京府(現東京都)に隣接する茨城県、千葉県、静岡県東部までの内陸と沿岸にわたる広い範囲に被害が及んだ。なお、地震発生時が昼時と重なり火災が発生して大火となり、三日間に亘って類焼し、当時の東京市の家屋の 6 割が消失することになった。

自然災害で失われた命に哀悼の意を表す。私たちは地震という自然の驚異を自分たちの意志や努力で避けることはできない。ただ、防災に心掛けるしかない。しかし、大震災の後に軍部、警察、そして民衆によっておこなわれた朝鮮人・中国人への大量虐殺は、たとえ異常な心理的状況下で起きたとしても、決して許されない事件であった。

流言飛語による混乱

震災当日の 9 月 1 日には既に朝鮮人による放火と暴動のデマが流布された。昼食を控える時間の地震

ならば、火災と類焼も避けられないであろう。また火災時には何らかの爆発が起きても不思議ではない。しかし、その仕業を朝鮮人・中国人による放火と暴動によるものと吹聴されたのは、1910 年に朝鮮の保護国化を名目に日韓併合条約を締結し朝鮮半島を植民地下においたことにあると思う。震災後の混乱に乗じて朝鮮人たちが今度は日本の本土で暴動を起こすかもしれないと言う恐怖が、被災した民衆を襲ったのであろう。

また、「朝鮮人が井戸に毒を入れた。強盗団となって各地を荒し、女性に暴行を働いている」と根拠のない噂が広がった。最初に誰が流布したのかは不明であるが、恐らく罹災した人々が身を寄せ合う集団の中で噂が広がり始めたものと思われる。更に、この噂を裏付けるかのように政府機関が朝鮮人への警戒を呼び掛け始めた。内務省は翌 9 月 2 日に電文で各地方長官に朝鮮人が不遇の目的を行おうとしているから厳密に取りしめるようにとの指令を出した。これを受けて東京の近県の各町村の住民にも自警団を組織させて朝鮮人への警戒に当たらせ、有事の際には適当の方策を取る許可を与えた。政府から朝鮮人による暴動が公示されたことによって、民衆はこれを事実と認識することになる。

警察、軍隊、民衆による虐殺

震災の当初、政府や警察が流言するデマを否定することなく、むしろ公権によって被災した人々の間にデマが拡散し始めた。また、被災地の治安維持と状況の掌握のために出動した軍隊を見た民衆は、朝鮮人による暴動を現実のものと思い込んだ。被災した民衆の中に恐怖が広がり始めたところ、官庁による自警団結成の支持を受けた。これによって東京に 1600、神奈川に 600、千葉・埼玉に 300 の自警団が結成される。また、在郷軍人会も虐殺に加担した。彼らの多くは植民地下の朝鮮半島で起きた暴動を武力で鎮圧した者たちが多数含まれていたと言う。

最初に虐殺を行ったのは軍隊であると言われる。手を針金で縛られた数十人の朝鮮人たちが河原に連れて来られ、後ろから銃で撃つのを住民が目撃した。遺体はそのまま川に流された。また、予め穴を掘らせ、銃で撃ち、銃剣で殺傷し、遺体に灯油をかけら

れて焼き、埋めた例もある。

警察は捕らえられた朝鮮人を自警団に引き渡し始めた。自警団を組織した民衆は竹槍を作り、鳶口や手近な刃物を用意した。また、槍や日本刀をもって武装する者たちが検問所を作り、朝鮮人を見つけ出して殺害をはじめた。虐殺に加わった民衆の中には「日本刀の試し斬りをしたかった。人を殺してみたかった。」と言う者もいた。また、朝鮮人を求めて警察を取り囲み、捕らえられた朝鮮人を引き渡すように要求する例もあった。朝鮮人を捕らえ殺害することで、国から賞を受けると思っていた人たちもいた。

軍隊や警察は統率が取れた組織であった。政府が事の重大さに気づき、武装を解除の命令をだしたが、自警団はこれに従わず、なお狂気に満ちた虐殺を繰り返した。

震災後の虐殺の犠牲になった朝鮮人・中国人の実数は不明である。遺体は焼かれ、埋められ、川に流された。犠牲者の数は6000を超えるとも言われる。これが100年前の日本に起きた出来事である。

朝鮮の植民地化と侮蔑。そして憎悪。

虐殺の根底には1900年に始まる朝鮮半島の植民地化が影響している。日韓併合の9年後、1919年2月8日に日本国内において朝鮮人による2・8独立宣言が決議された。3月1日には日本統治下のソウルにおいて3・1独立宣言をした。この時点では政権を取り戻すことも、自治権を得ることもなかった。しかし、朝鮮半島の各地に反植民地運動が広がりはじめた。これに対して警察および軍隊が出動して実弾の発砲をとまなう軍事的な強制措置をとり運動を弾圧した。このとき7,500人のもの犠牲者が出たと言われる。植民地支配と言う暴力が可視化される出来事であり、朝鮮人への軽視と侮蔑が露わとなる事件であった。このときに解放運動を弾圧した軍人の一

部が震災当時の在郷軍人会のメンバーであったと言われる。今度は自分たちの身が危ないと思い、震災後の混乱に乗じて朝鮮人たちが暴動を起こすのを恐れたのであろう。また、国内には多くの朝鮮人が低賃金で雇用されていたため、仕事にあぶれた者たちの不満の対象にもなっていた。

関東大震災 朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年

キリスト者追悼集会

100年前に起きた大虐殺を想起し、犠牲になった方々の死を悼み、今後も記憶し続けるための追悼集会を諸教会の有志達と計画している。私たち人権委員会では、実行委員会参加への呼び掛けに応えることによって、関東大震災後の大惨事に思いを寄せることができた。現在人権侵害を受けて蔑ろにされている人たちだけではなく、死者の呻きに耳を傾けることも必要であると気付かされている。なお、虐殺から100年を経るまで、全国の諸教会が一致して追悼集会を開催することがなかったことを憂う。また、在日大韓基督教会では震災が起きた9月1日を特別な日としているが、彼らと宣教協約を結んでいる私たち日本キリスト教会はこの日の出来事を忘れていないだろうか。

今年で東日本大震災から12年、阪神淡路大震災から28年が経つ。なおも日本海溝・千島海溝地震や南海トラフを基にする巨大地震が、ここ数年のうちに高い確率で発生するかもしれないと囁かれている。自然災害は避けることはできない。ただ、仮に大きな地震が起きたとしても、100年前のような虐殺が再び繰り返されることはないと信じる。しかし、外国人に対するヘイトスピーチは治まることなく今も続いている。憎悪に満ちた言葉を向けられた人たちの心はその度に殺され続けている。

(人権委員会委員長 北見教会牧師 森下一彦)

《 集 会 案 内 》

○関東大震災朝鮮人・中国人

虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会

「わたしたちは忘れない」

日時：9月3日(日) 午後4時～5時半

会場：在日大韓基督教会東京教会

参加費無料・申込不要(会場での献金あり)

オンライン配信は以下のリンクより視聴できます。

<https://youtube.com/live/fkVMTBC5GDU?feature=share>

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

○『慰安婦』問題オンライン学習会

日時：10月3日(火) 午前10時～11時半

申込先：matubara.chccj@gmail.com

※上記アドレスに、件名「10/3 学習会申し込み」で参加者氏名・返信用メールアドレス・電話番号・教会名をお知らせください。9月19日(火)申込締切。

問合せ：日本軍「慰安婦」問題と取り組む会
世話人会 渡部静子(学習会担当)

T/F 028 - 622 - 1043(宇都宮松原教会)

常紋トンネル工事殉難者追悼式のご案内

日 時：10月7日(土) 午後2時 ※ 雨天の際は中止します。

場 所：常紋トンネル工事殉難者追悼碑(北見市留辺蘂町旧金華小学校跡)

北海道の開拓期には、想像を絶するような強制労働によって多くの犠牲者が出ています。日常的に利用している「中央道(網走－北見峠)」の開削と「常紋トンネル(現 JR 石北線)」工事の際にも大勢の方々の命が失われました。その遺体の多くは十分に弔われること無く、現在も土中に埋められたままです。開拓期に行われた、人間を人間として認めない行為でした。現代に生きるわたしたちも同じ人間として、この出来事を記憶し、後の世に伝えたいと思っております。ぜひご出席くださいますようご案内いたします。

「中央道」開削工事による犠牲者

・1891年(明治24年)5月に網走監獄の囚人1400名(殆どが思想犯)により、網走から北見峠に至る約160kmの道路(網走、端野、北見、留辺蘂、生田原、遠軽、丸瀬布、白滝、上川)を7ヶ月間で開通。その際に212名もの犠牲者を出す。中央道の開通により北海道の内陸に開拓者達が入植可能になり、北見市の開拓(1897年)も始まる。

「常紋トンネル」開削工事による犠牲者

・1914年(大正3年)に開通した JR 石北線(旧金華駅－生田原駅間)のトンネル工事の際、強制労働により100～400名の犠牲者が出たと言われる(現在までに59体の遺骨がトンネル周辺から見つかっている)。

今年度は講演会を中止し、追悼式のみとなります。なお、新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。

・体調のすぐれない方の出席はご遠慮ください。 ・マスク着用と手指消毒にご協力ください。

主 催：常紋トンネル追悼式実行委員会

後 援：カトリック札幌教区 正義と平和協議会、日本聖公会北海道教区宣教活動推進部
日本キリスト教会大会 人権委員会、日本キリスト教会北海道中会 ヤスクニ・社会問題委員会

連絡先 〒090-0035 北見市北斗町2丁目1-30
日本キリスト教会 北見教会牧師 森下一彦
TEL 0157-23-3361、メール k.mori64@outlook.jp

編集後記 7月、大阪北教会を会場に委員会を開催した。久しぶりに対面で集まったこの機会に、フィールドワークを実施。30度を超える今年一番の暑さの中、森田幸男牧師に西成の愛隣地区をご案内頂いた。

路上生活者や生活困窮者への炊き出しの他、散髪や法律相談、休憩所の提供など、隣人愛が実践されている現場を見聞した。特に印象に残ったのは、聖フランシスコ会「ふるさとの家」の一室に設けられた納骨室。宗教を問わず、希望者は誰でも

も入ることができるこの納骨室は、地上に帰る家のない人々の“ふるさと”として開かれている。

最後に、在日大韓基督教会 浪花教会(愛の家)を訪ね、金鐘賢牧師夫妻から長年に亘る炊き出し支援についてお話を伺った。大阪北教会もそうだが、現地スタッフはごく少数である。だが全国に同じ志を抱く兄弟姉妹は数えきれず、支援は絶えない。

何ができるかでなく、せねばならないことがそこにある。それがキリストの愛に生きることなのだろう。私たちもそこに連帯する者でありたい。